



第25回 日本・中国・台湾三方羽毛球懇談会

日本羽毛球市場報告

日本羽毛球製品協同組合

専務理事

山本 正雄

台湾・台南

2019年9月10日



I. 日本経済と羽毛業界の概況

1. 2018年はトランプ政権発の貿易戦争や中国経済の減速が世界に波及し欧州や産油国の成長率が下振れしました。

2019年6月大阪で開催されたG20で米中貿易協議は継続となったものの、今後の見通しは未だ予断を許さず、日本国内は10月からの消費税増税もあって、国内景気は冷え込んでいます。

また昨冬の暖冬で羽毛業界では、羽毛原料・羽毛製品の流通在庫も抱え、昨年来の原料高の影響もあって、羽毛製品製造メーカーは大変苦戦しており、今年の秋冬商戦は厳しい状況を余儀なくされそうです。



2. 日本の羽毛ふとん生産数量は、2018年は129万枚で前年より僅かに減少しました。一方で輸入数量は、単価は僅かに下落しましたが、

前年対比23万枚増の297万枚になりました。

ふとんの生産のうち、羽毛ふとんの占める割合は年々僅かに減少し

2014年は34%でしたが、2018年は40%になっています。

また、数量も2014年の130万枚から

2018年は1万枚減となりました。



3. 2018年の羽毛原料輸入数量は2,896トンで前年対比7.6%減、一方原料価格は前年対比18.3%大幅増の6,335円/KGでした。

羽毛原料の輸入国別では2018年は中国が全体の27%を占め、787トン、台湾が全体の38%を占め、1,091トンになっています。

中国は前年対比24%減少、一方台湾は6%増加しています。



II.日本の羽毛市場の現状報告



1. 日本市場における羽毛ふとんの生産推移（過去5年間）

表1. 羽毛ふとんの生産動向（過去5年間）

	羽毛ふとん生産枚数
	(万数)
2014年	130
2015年	122
2016年	130
2017年	130
2018年	129

- ① ふとん全体の生産量は2008年以降減少に転じ、2013年から400万枚を割り込み、2018年は前年対比20万枚減少し、322万枚となりました。
- ② 羽毛ふとん生産数量は2009年の176万枚をピークにその後減少に転じましたが、2017年は前年比横這いの130万枚になり、2018年は前年対比微減の129万枚でした。また、ふとんの中で羽毛ふとんが占める割合は40%になりました。

ふとんの生産推移

単位：万枚



2.羽毛原料の輸入動向（過去5年間）

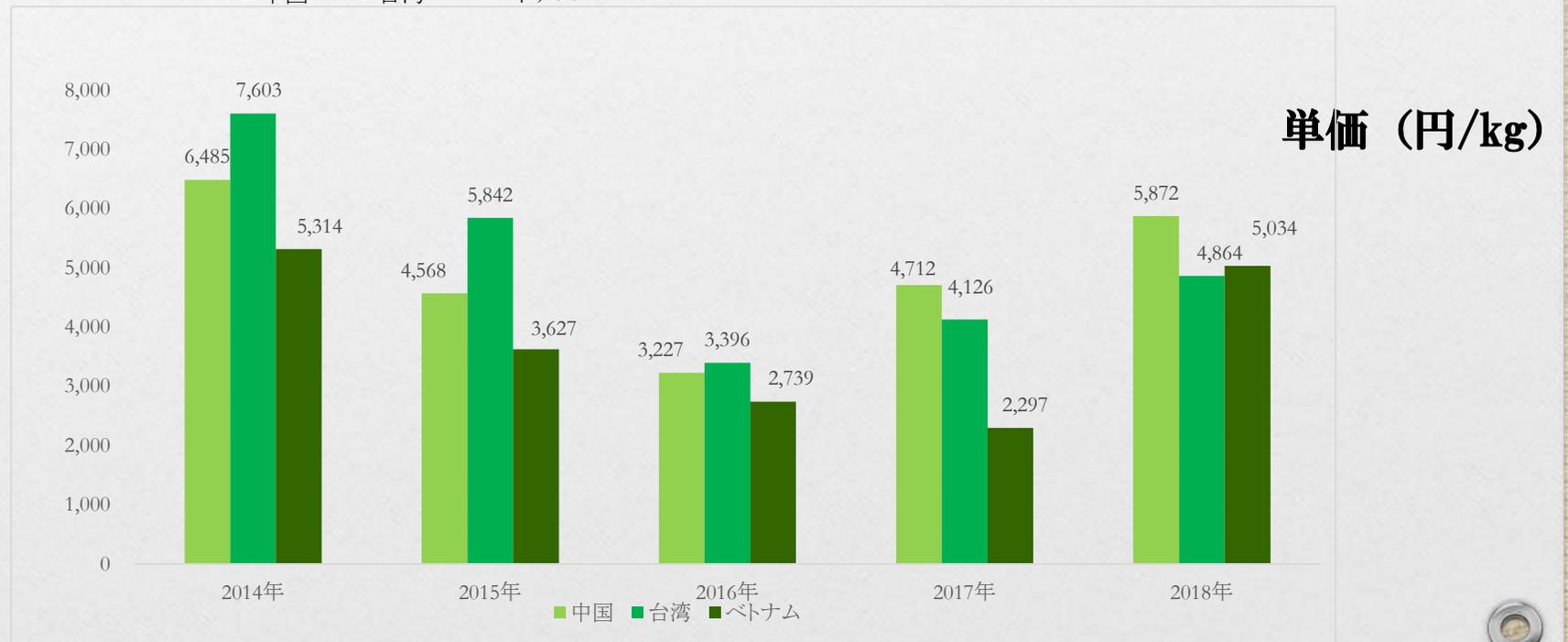
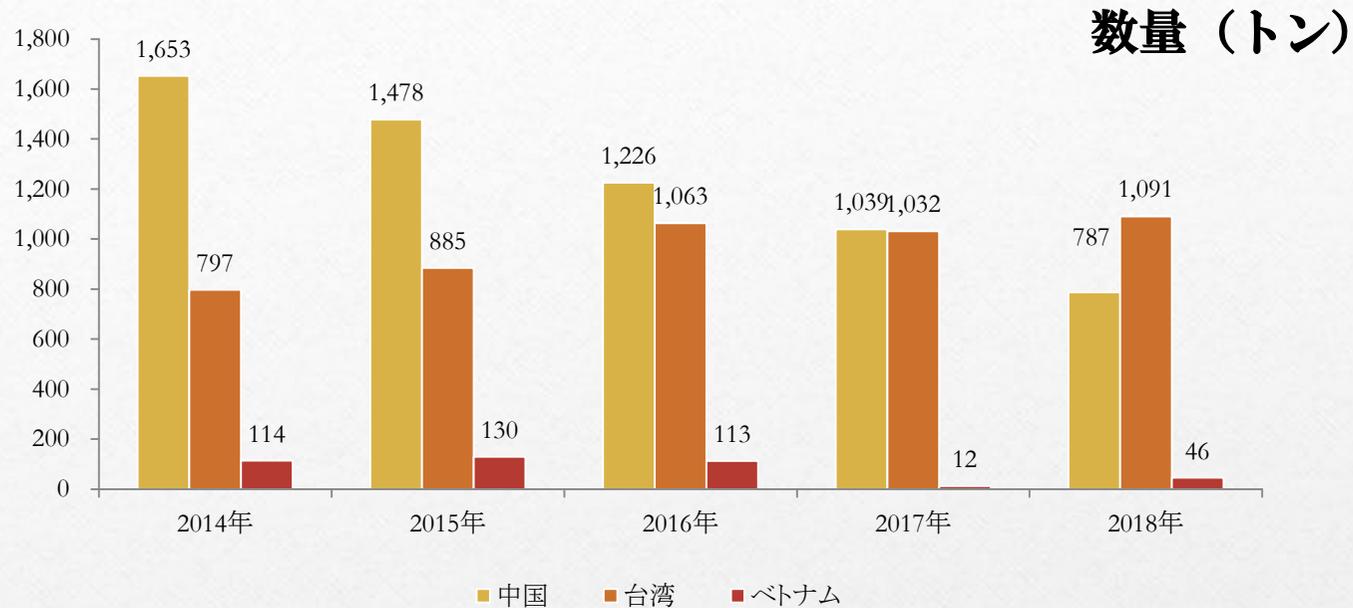
単位：数量(トン)/単価(円/Kg)

国名	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
中国	1,653 (5.1%)	6,485 (-7.0%)	1,478 (-10.6%)	4,568 (-29.6%)	1,226 (-17.0%)	3,277 (-28.3%)	1,039 (-15.3%)	4,712 (43.8%)	787 (-24.3%)	5,872 (24.6%)
台湾	797 (-24.6%)	7,603 (24.8%)	885 (11.0%)	5,842 (-23.2%)	1,063 (20.2%)	3,396 (-41.9%)	1,032 (-2.9%)	4,126 (21.5%)	1,091 (5.7%)	4,864 (17.9%)
ベトナム	114 (-52.9%)	5,314 (5.6%)	130 (14.0%)	3,627 (-31.8%)	113 (-13.0%)	2,739 (-24.5%)	12 (-89.3%)	2,297 (-16.1%)	46 (378.6%)	5,034 (219.1%)
合計	3,337 (-11.0%)	7,507 (8.4%)	3,081 (-7.7%)	5,731 (-23.7%)	3,613 (17.3%)	4,238 (-26.1%)	3,132 (-13.3%)	5,355 (26.4%)	2,896 (-7.6%)	6,335 (18.3%)

表2. 羽毛原料の輸入動向（過去5年間）

- ① 日本の羽毛原料の輸入数量は12年以降減少傾向でしたが、16年は一旦増加に転じたものの、18年は前年対比236トン減の2,896トンとなっています。また単価については、10年以降14年まで上昇に転じたが、15年/16年は下落、但し17年から上昇に転じ18年は前年対比18.3%大幅増の6,335円/Kgになりました。
- ② 18年の中国からの輸入数量は、787トンで前年に比べ24%減少、輸入単価は5,872円/Kgと前年より25%大幅に上昇しました。また、台湾からの輸入数量は1,091トンで前年に比べ5.7%増加し、輸入単価についても前年に比べ17.9%大幅に上昇しました。

羽毛原料の輸入動向（過去5年）



3. 羽毛原料の輸入状況（2018年、2019年/1月～6月）

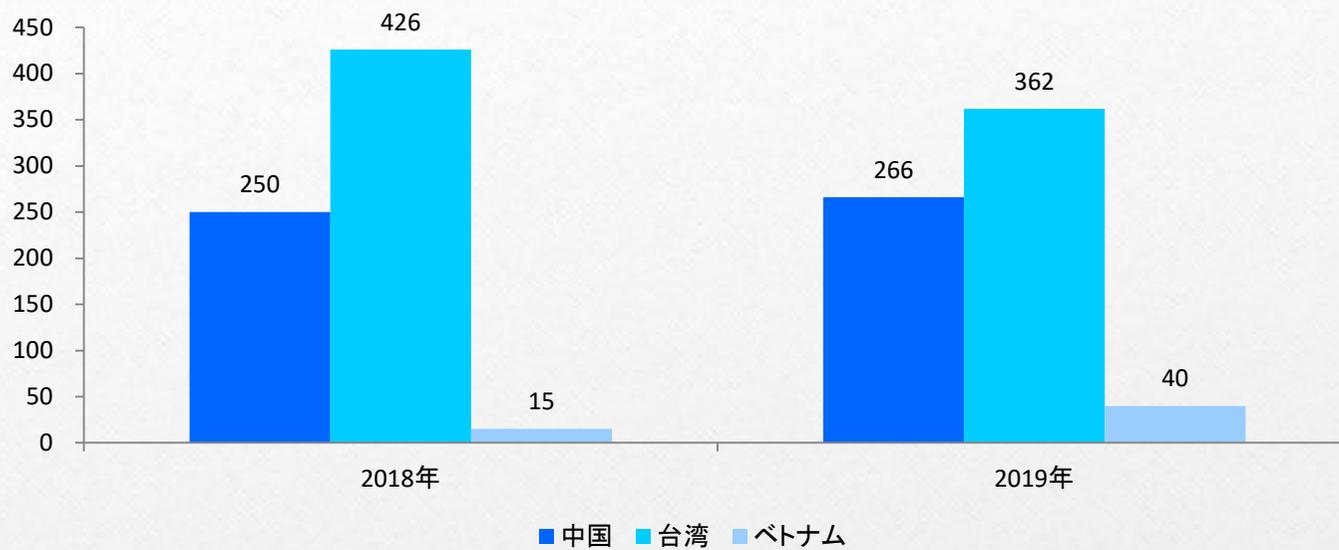
国名	項目	2018年1～6月	2019年1～6月
中国	数量（トン）	250 (-26.7%)	266 (6.6%)
	単価（円/Kg）	5,343 (21.0%)	5,744 (7.5%)
台湾	数量（トン）	426 (15.1%)	362 (-15.1%)
	単価（円/Kg）	3,739 (15.4%)	4,144 (10.8%)
ベトナム	数量（トン）	15 (25.0%)	40 (265.5%)
	単価（円/Kg）	1,254 (-45.4%)	4,406 (351.4%)
合計	数量（トン）	1,063 (-3.6%)	1,014 (-4.6%)
	単価（円/Kg）	5,544 (18.3%)	6,036 (8.9%)

表3. 羽毛原料の輸入状況（上半期）

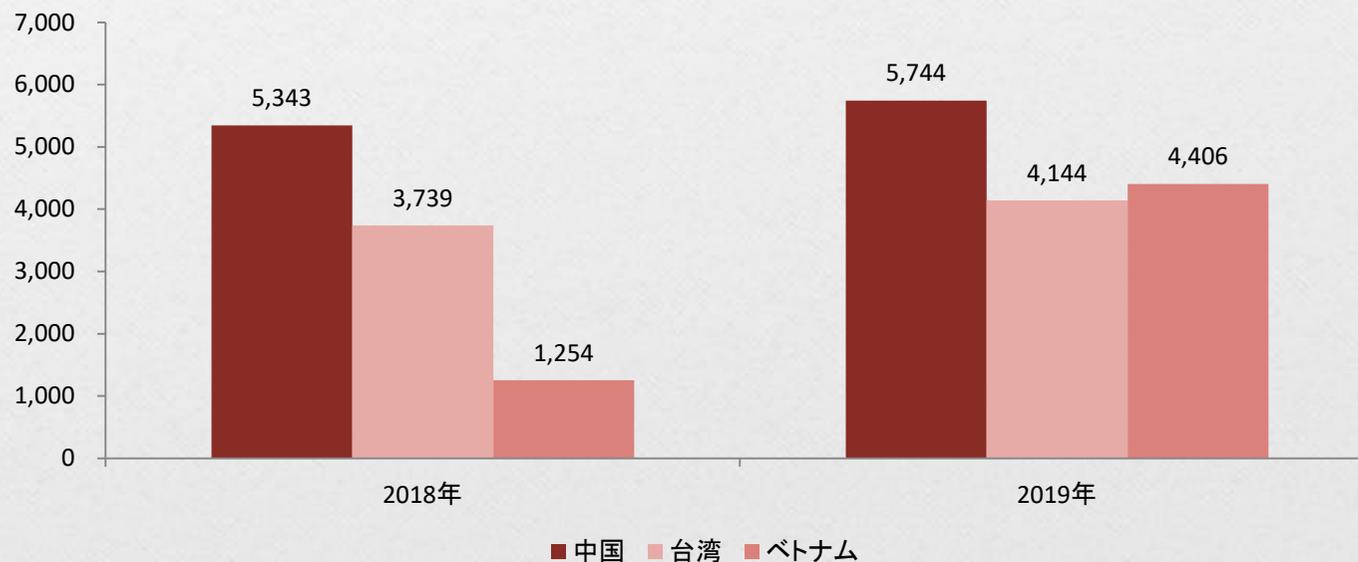
- ① 19年上半期（1～6月）羽毛原料の全体の輸入数量は1,014トンで、前年同期に比べて4.6%減少しています。但し、単価については8.9%上昇となりました。
- ② 中国からの輸入数量は前年同期に比べて6.6%増加し、台湾は15.1%大幅に減少しています。但し、単価については中国が7.5%上昇、台湾も10.8%と大幅に上昇しています。

羽毛原料の輸入状況（2018年、2019年/1月～6月）

数量（トン）



単価（円/kg）



4.羽毛ふとん輸入実績（過去5年間）

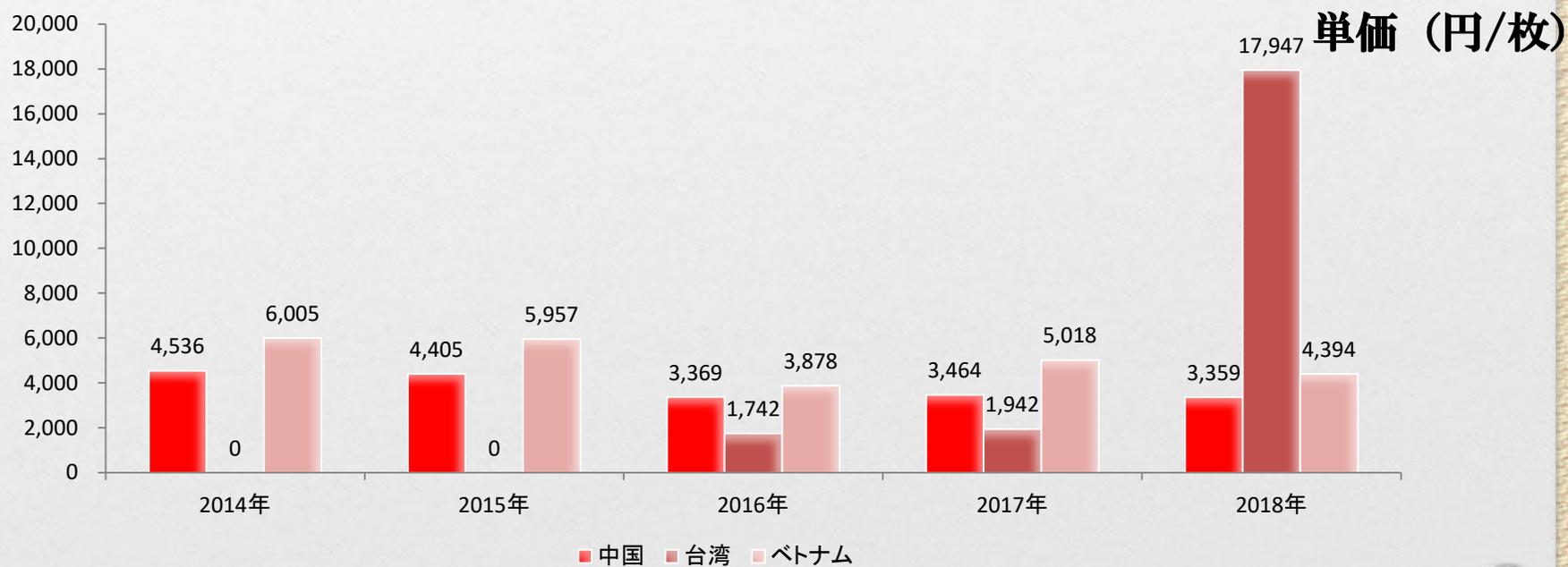
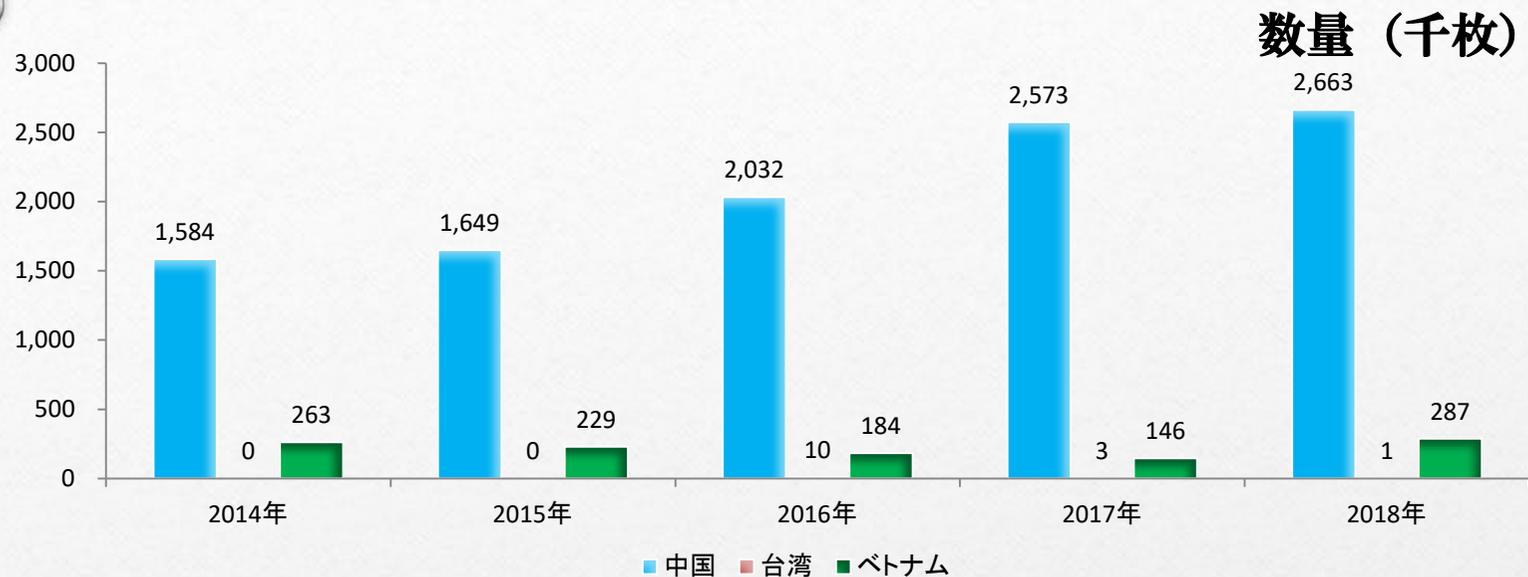
単位：数量(千枚)/単価(円/枚)

国名	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
中国	1,584 (-29.3%)	4,536 (24.1%)	1,649 (4.1%)	4,405 (-2.9%)	2,032 (23.2%)	3,369 (-23.5%)	2,573 (26.6%)	3,464 (2.8%)	2,663 (3.5%)	3,359 (-3.0%)
台湾	0	0	0	0	10	1,742	3 (-70.0%)	1,942 (11.5%)	1 (-60.3%)	17,947 (924.1%)
ベトナム	263 (-32.0%)	6,005 (24.1%)	229 (-12.9%)	5,957 (-0.8%)	184 (-20.0%)	3,878 (-34.9%)	146 (-20.7%)	5,018 (29.4%)	287 (196.1%)	4,394 (-12.4%)
合計	1,860 (-29.8%)	5,045 (24.6%)	1,895 (1.9%)	4,837 (-4.1%)	2,240 (18.2%)	3,558 (-26.5%)	2,737 (22.2%)	3,652 (2.6%)	2,968 (8.5%)	3,586 (-1.8%)

表4. 羽毛ふとん輸入実績（過去5年間）

- ① 羽毛ふとんの輸入数量は、10年をピークに毎年減少していたが、15年から増加に転じ、18年は前年に比べて23.1万枚大幅増の297万枚となりましたが、単価は前年対比1.8%微減の3,586円/枚となりました。
- ② 中国からの18年の輸入数量は、2,663千枚で前年に比べ3.5%増加しているが、輸入単価については前年に比べ3%僅かに下落しました。
- ③ ベトナムからの輸入数量については、18年は前年対比141千枚大幅に増加しました。

羽毛ふとん輸入実績（過去5年間）



5. 羽毛ふとん輸入実績(2018年・2019年/1月～6月)

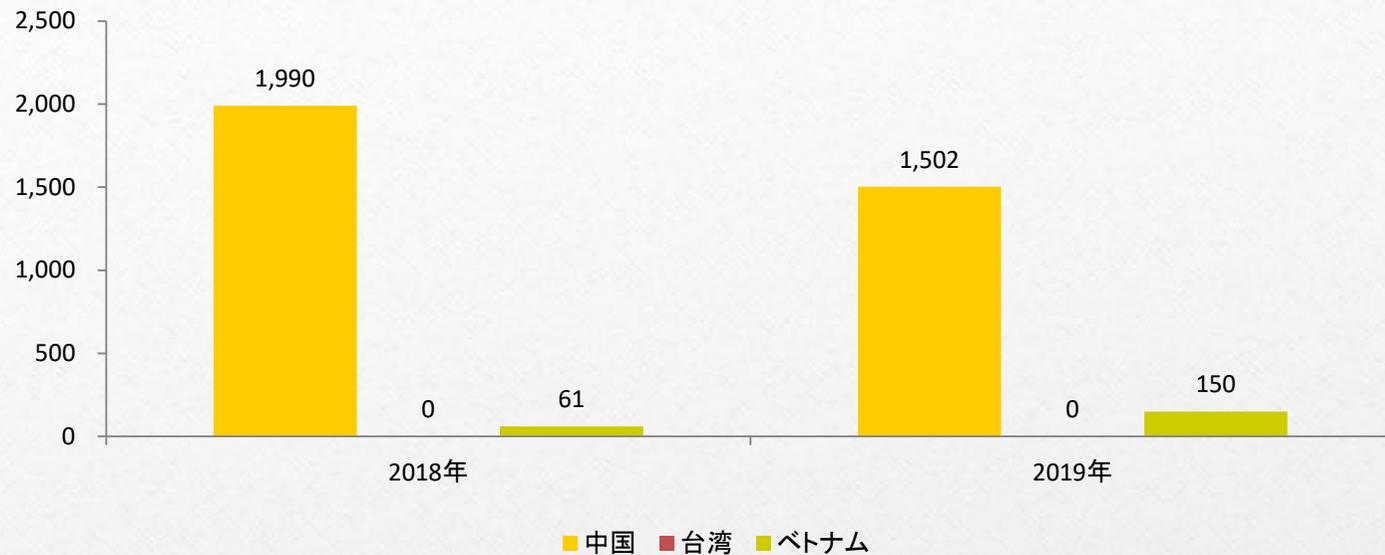
国名	項目	2018年1～6月	2019年1～6月
中国	数量(千枚)	1,990 (21.0%)	1,502 (-24.5%)
	単価(円/枚)	2,466 (-4.7%)	2,564 (4.0%)
台湾	数量(千枚)	0 -	0 -
	単価(円/枚)	7,525 -	0 -
ベトナム	数量(千枚)	61 (38.6%)	150 (247.2%)
	単価(円/枚)	2,611 (-28.4%)	2,144 (-17.9%)
合計	数量(千枚)	2,055 (21.6%)	1,656 (-19.4%)
	単価(円/枚)	2,545 (-4.4%)	2,590 (1.8%)

表5. 羽毛ふとん輸入実績(上半期対比)

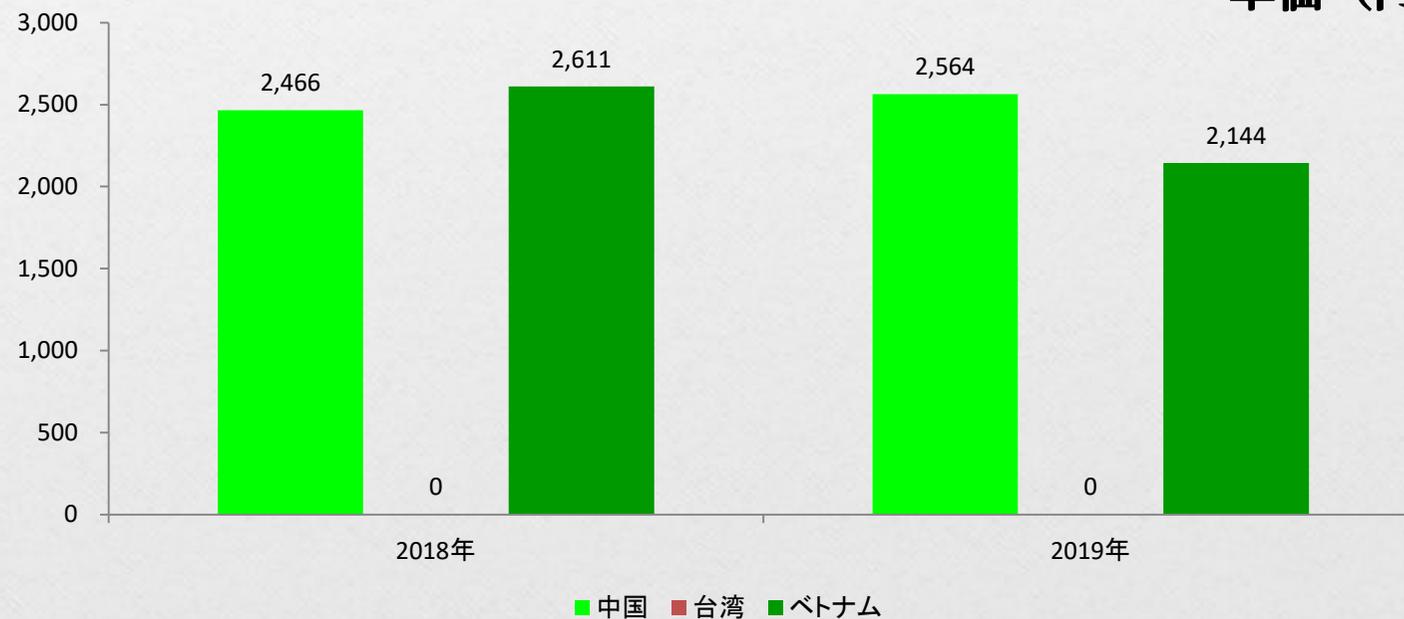
- ① 19年上半期(1～6月)の全体の輸入数量は1,656千枚で前年同期に比べて19.4%大幅に減少しています。
- ② また前年同期に比べて輸入数量は、中国が438千枚と大幅減少、ベトナムからの輸入が89千枚増えています。また中国、ベトナムからの輸入数量は輸入数量全体の99.8%を占めています。
- ③ 単価については、中国が前年同期対比4.0%上昇し、ベトナムは17.9%大幅に下落しています。

羽毛ふとん輸入実績（過去5年間）

数量（千枚）



単価（円/枚）



Ⅲ.業界活性化に向けた 2019年度事業概要



1) JBA トレーサビリティ監査システム (J-TAS)

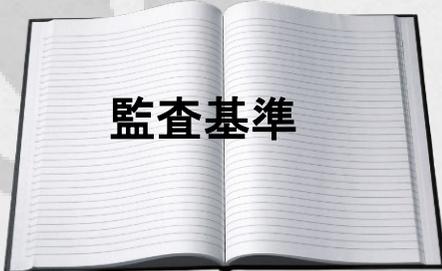
1 JBAトレーサビリティ監査システムが稼働

産地偽装対策の集大成として、本年よりJBAトレーサビリティ監査システム (J-TAS)が稼働した。経済産業省の指導により、このシステムの普及の為、卸業・小売りに最も近い、当組合の上部団体であり、一般社団法人日本寝具寝装品協会(JBA)の中に、J-TAS会を設置し、当組合が全面的にサポートしている。

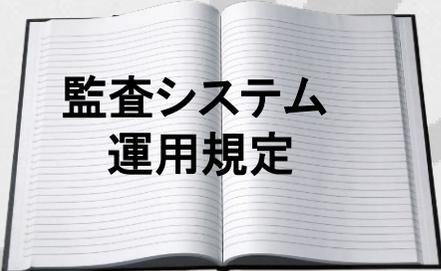
J-TAS入会問い合わせ先：<http://www.jba210.jp/english/>



行動
規範



監査基準



監査システム
運用規定



入会
規則

JBA羽毛原料・羽毛ふとんトレーサビリティ監査システム

< JBA traceability Audit System >

J-TAS 縫着ラベル



JBA 羽毛産地認証®
Japan Bedding Goods Association

一般社団法人 日本寝具寝装品協会
日本羽毛製品協同組合
公認
羽毛トレーサビリティ認定

認定社名 ○○○○株式会社

認定番号 ○○○○○○○○

安心羽毛宣言®

一般社団法人 日本寝具寝装品協会 (JBA) が指定する
第三者監査機関がトレーサビリティ監査を行い、
JBAが運営するJ-TAS協議会が認定した
安心の羽毛を使用した製品であることを証明します。

一般社団法人 日本寝具寝装品協会

2019年秋冬 運用開始

入会申請受付中

詳細は [JBAホームページ【J-TAS】](#) をご覧ください

J-TASサプライチェーン

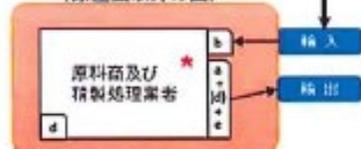
I : 原産国

(輸出入書類が発生しない移動を含む 例: EU内)

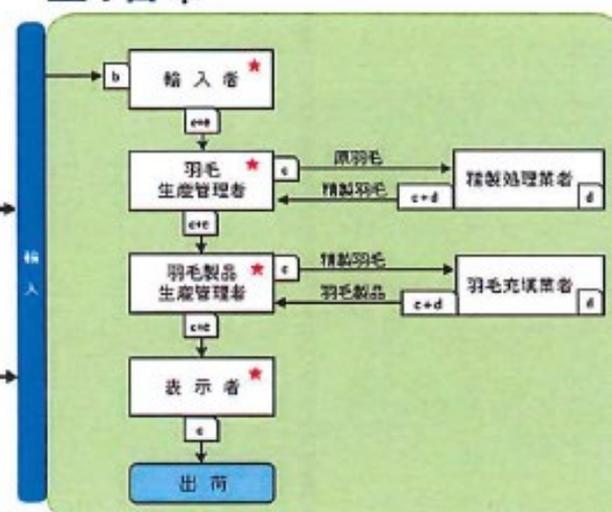


II : 加工国

(原産国以外の国)



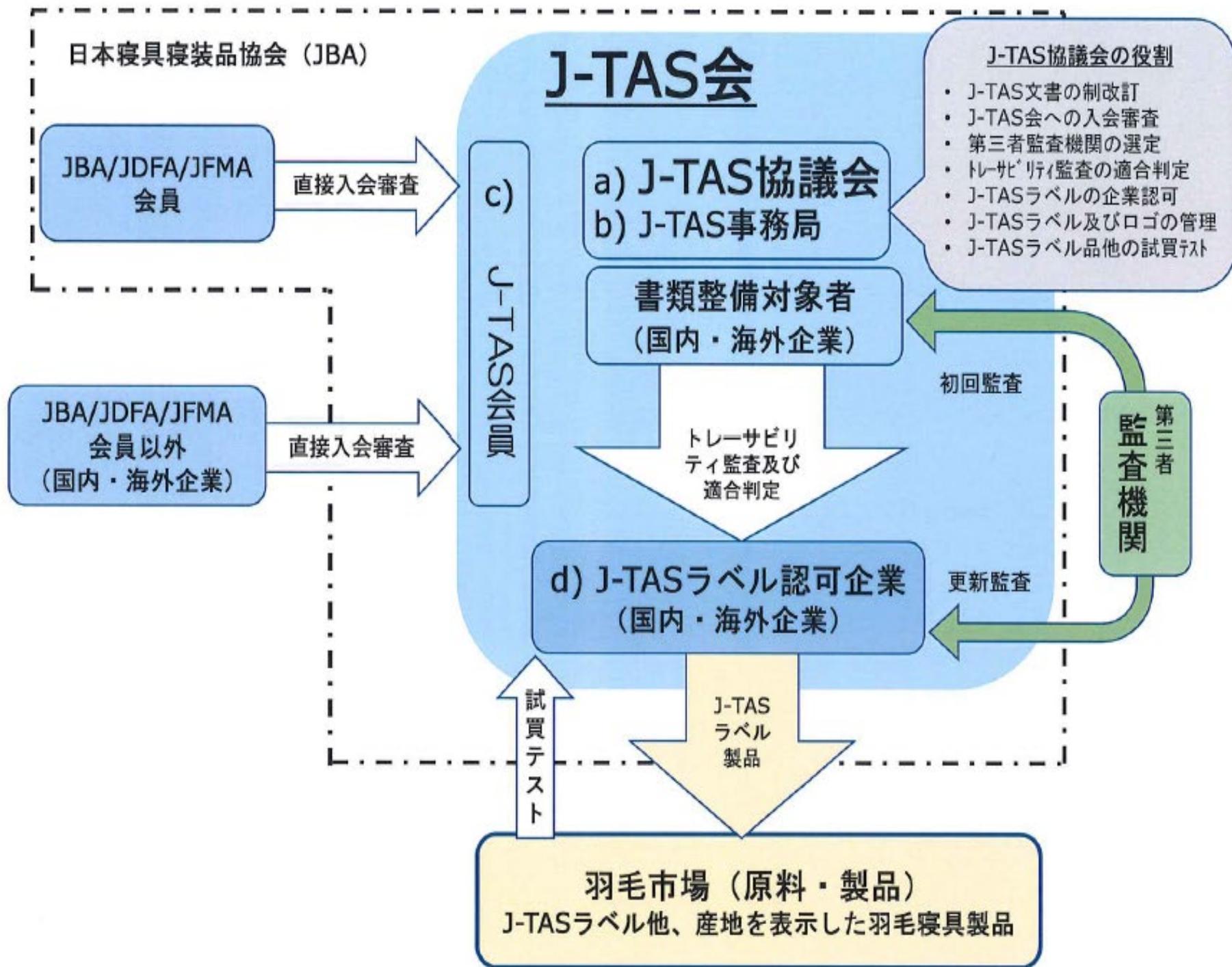
III : 日本



トレーサビリティの確認書類

- a. 輸出書類
- b. 輸入書類
- c. 移動記録(入出荷書類)
- d. 生産記録(生産ロット毎)
- e. 商取引情報

★ 書類整備対象者



2) 現在の羽毛品質問題への対応策について

1. 現在の取り巻く環境

近年高騰する羽毛原料の価格を抑える為に品質を低下させた粗悪な羽毛や化学物質処理された羽毛を使用した製品が増加している。海外ではこのような製品による健康被害が報告されており、同様の健康被害を日本国内でも懸念されている。しかし現行の羽毛品質試験は物性試験法(JIS)だけであり、この問題に対応できていない。



2) 現在の羽毛品質問題への対応策について

2. 羽毛原料の大きな課題

- 汚染羽毛の流通(Pollution)
海外加工国の工場で給水・排水が制限されたことにより、適切な精製処理がされず、薬剤・バクテリア・栄養塩類・アレルギーの残留した汚染羽毛が流通
- 品質偽装問題(Glue Down)
羽毛原料価格上昇に対して生産コストを下げる為、一部のメーカーが化学物質を用いて羽毛にファイバーやほこりなどを接着させたりファイバーを固めてダウンのように偽装したグルーダウンが流通

2) 現在の羽毛品質問題への対応策について

3. グルーダウン等不適正羽毛の鑑別試験方法

- 当組合は昨年5月に理事長名でグルーダウンを充填した場合、ゴールドラベルは付与されない旨文書で通達した。昨年6月のIDFBタリン総会でグルーダウン問題を提起し、同時に当組合の技術委員会でグルーダウン等の不適正羽毛の鑑別試験方法を検討開始しました
- 本年6月のIDFB六安総会で中国羽絨工業協会が発表したグルーダウン評価方法は大変良く纏まっており、当組合も参考にして、独自の鑑別試験方法を確立し、新たな日羽協試験方法として8月に発表しました

グルーダウンの定義：

粘着性の高い薬剤を用いて羽毛にファイバー(ダウンファイバー、フェザーファイバー、チキンファイバー)、アカ、ほこりなどを接着させてダウン状にしたもの

1. 試験方法および評価項目／基準

試験方法	評価項目／基準	
全体の 外観評価	①	かたまり評価 複数のダウン、フェザーおよびファイバーがもつれて塊状になっている。
	②	羽毛中のファイバーの状態 個々のダウンやフェザーに多数のファイバーが絡まっている。
	③	ふくらみの評価 ひと握りの試験試料を握り固め、開放したとき、数秒にふくらみが元に戻らず塊状になっている。
ダウンの 顕微鏡 観察	①	ダウン中の残存異物片 樹脂等の異物片が複数混入しているダウンが6個以上ある。
	②	ダウン中の残存他成分 短いファイバーやきょう雑物、損傷フェザーが複数混入しているダウンが20個以上ある。
	③	ダウン中の残存陸鳥ファイバー 陸鳥ファイバーが混入しているダウンが10個以上ある。

2) 現在の羽毛品質問題への対応策について

4. 羽毛安全衛生試験

- グルーダウン等の不適正羽毛の鑑別試験方法を補完する目的で昨年7月に立ち上げた羽毛安全衛生委員会では専門の試験機関4社も参加し、羽毛安全衛生試験の検討を開始しました
- その結果、衛生面では羽毛が適正に洗浄されているかを試験する目的で羽毛に残留している生菌数を測定する、「一般生菌数測定試験」を8月日羽協試験方法として発表し、安全面では前段階の試験方法(ドラフト試験方法)として、水に溶けだした羽毛に残留している物資が、ゼブラフィッシュ受精卵(胚)の発生に影響を及ぼさないかを評価する、「ゼブラフィッシュ胚発生評価試験」を発表しました。

2) 現在の羽毛品質問題への対応策について

5. ダウンの定義及びかさ高性の羽毛試験方法の見直し

現在のJISのダウンの定義及びスチーム法前処理によるかさ高性のJIS試験方法ではグレーダウン等の不適正羽毛が混入している場合、適正なダウン率及びかさ高性を測定出来ないことから、JISの見直しを検討開始しました。またJISの改正準備に並行して、ゴールドラベル品質基準についても今後見直しを検討する



Premium Gold Label

3) スチール製かさ高測定装置の普及

2010年にスチール製の新型かさ高測定装置を販売開始して以来、これまで**119台** (国内**60台**・海外**59台**)を供給しております。



米国	5台
欧州	10台
中国	27台
台湾	7台
韓国	7台
ベトナム	2台
香港	1台
日本	60台
合計	119台

4) 日羽協40周年記念式典を実施

2018年10月10日(ふとんの日)に当組合は創立40周年を迎え、記念式典を東京で開催。当日は有名な歌手、タレントでもある、郷ひろみ氏に日本羽毛ふとんアンバサダーに就任してもらい、プレミアムゴールドラベルの最高級羽毛掛けふとん及び掻巻をプレゼント。会場には多くのメディアが駆けつけ、全国のTV、新聞、インターネットで報道されました。



ご清聴ありがとうございました

